第3回　庄内みどころ 再発見

あおあお朝日 古道あるき

Supported by 庄内広域行政組合

庄内各地の魅力を、その地域に詳しい方と歩いて伝える「庄内みどころ再発見」。今回は鶴岡市の旧朝日村地域で、六十里越街道の一部を歩いてきました。

今回のガイド

清野（せいの） 義次（よしつぐ）さん

アルゴディア研究会副会長 兼 街道整備部会部長。旧朝日村の上名川出身。地元の建設会社を退職後、街道整備を担当している。

地元有志が復活させた十王峠への古道

「道」は面白い。新道が一本通っただけで、道沿いに次々と新店が並んでにぎわう。ひるがえって旧道は静まりかえり、パタリパタリと店も人も姿を消していく。まるでオセロのように、道一本が町の表と裏を一気に逆転させてしまう。

「六十里越街道」は、庄内地方と内陸地方を結ぶ道。成り立ちには諸説あるが、最も古い説では、奈良時代に出羽国府があった旧藤島町と山形を結ぶ官道として開かれたといわれている。その後1200年にわたって、庄内から魚介類やローソク、内陸から紅花や真綿を運ぶ物流の道と、月山・湯殿山への参拝道として発展。全盛期の江戸時代、享保18（1733）年には約16万人が歩いたという記録が残る。ところが、明治37（1904）年に新道が開かれ、街道は表舞台から退いた。まさに道の栄枯盛衰を辿ってきたのだ。

しかし、この古道に再び光が当てられた。地元の有志が平成14年に「アルゴディア研究会」を結成し、街道の歴史的・文化的価値の見直しを始めたのだ。現在では26名のメンバーが街道や郷土史の研究、街道の整備などを行っている。彼らの調査・整備によって今春復活した十王峠の「峰道」を、副会長の清野さんに案内いただいた。

古地図から見出された「峰道」を歩く

スタートは、十王峠へ向かう市道から少し右に入ったところ。鬱蒼とした茂みに人ひとり分の山道が現れる。いきなり急勾配の登り坂で一瞬ひるむが、笑顔で先導する清野さんを見て、えいやっと足を踏み入れる。赤土でツルツル滑るから、ここは「うなぎの背坂」。5分ほど上ると「庄内平野一望坂」。どちらもアルゴディア研究会が名付けたそうで、振り返れば名前通りの見事な眺めが広がっている。「ほら、あれが酒田の火力発電所の煙突ですよ」。双眼鏡越しに見る庄内は、建物がみんな低くて空が広い。空気の澄む春や秋には

朝日庁舎の上野さんが朝一番に産直「あさひ・グー」で購入してきてくれた「とちもち」は山歩きのおやつ。

アルゴディア研究会の皆さんが丸太で製作。山っぽくてナイス!

鳥海山が一望できるという。この美しい眺望を江戸時代の旅人も楽しんだに違いない。

峠道をさらに分け入る。アケビにワラビ、ヤマユリ…代わる代わる姿を現す山の植物を楽しんでいると、あっという間に「十王峠展望地」。ここでひと休み。山歩きのおやつですよと、同行していた朝日庁舎の上野由貴さんが差し出したのは、まるくて茶色いとちもち。これぞ元気の特効薬！ 清野さんたちが作った丸太椅子に腰掛けて、みんなでほお張る。「十王峠は俗世と聖界を隔てる結界の地で、ここから南が聖域とされました。当時は茶屋や旅人の安全を見守る常夜灯などもあり、大変にぎわっていたそうです」。

黄緑色のブナの森に朝日の原風景を垣間見る

古い地図に描かれていた「峰道」は、数年前まで忘れ去られていた。一度消えた道の復活には、どんな苦労を伴うのか。「昔、多くの人が歩いた場所には『道の形』があるんです。わずかに谷になっている。だけど何十年も放置されていたから、3年前の調査開始時は、すべて藪の中。この辺かなと見当をつけて歩いて、ところどころに昔の人が石を重ねた跡などを見つけて」。点と点をつないでいく気の遠くなるような調査を、わずか3名で行ったそうだ。

十王峠のお地蔵さまにお参りしたら、ここからは下り坂。足の運びも軽快になる。こんこんと湧き出るイタヤ清水、雪の重みで根元の曲がった杉林を抜けていく。すると突然、視界が深緑から黄緑に、パッと明るくなる。ブナの林に入ったのだ。「林業が興ったことにより杉山が増えましたが、朝日の森はもともと、このブナ林だったんですよ」。ある時にはブナ林の中に道が開かれ、またある時には、ブナが杉となって林業が営まれた。人と山は年を重ねながら、その関係を結び直してきた。注連寺の境内では赤紫の萩が咲き始め、また次の秋が来ることを一足早く告げていた。

編集・文＝松本 典子　写真＝間 真由美
協力＝鶴岡市朝日庁舎産業課
参考文献＝『山形県朝日村 六十里越街道』「アルゴディア研究会」六十里越街道研究会・刊

注連寺にて

斜面に向かって曲がった杉が
冬の豪雪を物語る。

イタヤ清水では、すぐ横の
小さな六地蔵に水を6回
かけてから飲む習わし。

耳より朝日かわら版

町で見つけた面白いものや
耳よりの情報を選りすぐってお届けします！

大日坊

末年御縁年

大網地区の湯殿山注連寺と湯殿山総本寺大日坊では6年に一度、丑年と未年に御本尊が御開帳になる。ぜひ、特別なご利益にあやかりたい。
［注連寺御本尊 大日如来像 御開帳］
期間：平成27年5月1日～11月1日
［大日坊御本尊 御開帳］
期間：平成27年1月1日～12月31日

皇壇の杉（おうだんのすぎ）

大日坊の旧境内に立つ、高さ約27m、推定樹齢1800年の杉の巨木。一旦下に垂れてから上に向かう大枝が雄大。県指定天然記念物。

1冊500円。収益の一部は街道整備の費用に充てられます。

街道歩きの新たな楽しみ

ゆどのみち押印帖

今年7月から、遊び心のあるスタンプラリーが始まりました！ 全11ヵ所ある街道の名所でスタンプを押すと、押印帖の絵ができあがります。
お問い合わせ：あさひむら観光協会（道の駅「月山」月山あさひ博物村内）
☎0235-53-3411

ちっちゃい柿の実ひろったよ♪

イケメンと2ショット♡

そば処 大梵字

朝日産のそば粉100%のそば店。必要な分だけ石臼で挽いて手打ちで仕上げるため、1年中挽き立ての香りと味を楽しめる。
☎0235-53-3413

朝日人

旧朝日村に継承されてきた祭りや風習を伝えたいと製作された冊子。2014年6月に限定2千部を発行。
定価：1,000円+税
お問い合わせ：アイスリー株式会社
☎0235-23-8139

日本最大級の鰐口！

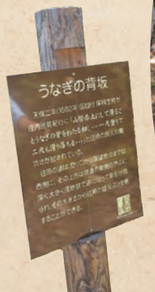
朝日ゆかりの著名人

森敦（もり・あつし）

注連寺でひと冬を過ごした体験をもとに描いた小説『月山』で、昭和49年に芥川賞を受賞した。

本多猪四郎（ほんだ・いしろう）

怪獣映画「ゴジラ」の監督。小学生で東京に引っ越すまで、七五三掛で育つ。父は注連寺の僧職をしていた。



金剛杖・おいずり・菅笠レンタル

江戸時代の「湯殿詣で」気分満点！ セットで500円。ご予約は2週間前までに。
お問い合わせ：あさひむら観光協会（道の駅「月山」月山あさひ博物村内）☎0235-53-3411